

西国柳生新影流兵法 錬心館



柳生新影流兵法 免許皆伝
錬心館 二代目館長
西国武道会館 館長

西田浩三

昭和二十九年生

当流派は柳生新影流の開祖「柳生石舟齋」の高弟である大野松右衛門(後に柳生姓拝命)と有地内蔵允が一六一一年に長州藩(山口県)の萩に派遣された事に始まり、

一六七一年には福岡藩に伝わり、その後薩摩藩にも伝承されています。このように日本の西国の地に伝承された柳生新影流は剣術・杖術・鉄扇術・小太刀・体術を含む兵法として現在まで脈々と受け継がれております。

福岡の地では、三宅三右衛門公が居合術を完成させ、その業を蒲池鎮浪公が実践的に改良する等、武道を伝承する為の努力を惜しまず「柳生新影流の業」の伝承と共に、進化発展を遂げて西国独自のものとなっています。

初代館長西田次芳は昭和五十六年に蒲池鎮浪先生の認可を受けて「福岡藩伝 柳生新影流兵法 錬心館」として独立しました。二代目館長西田浩三は、これらの事を鑑み先人達の熱き想いを引継ぎ、業を正しく継承する為に、平成十七年十一月に「西国 柳生新影流兵法 錬心館」と改名しております。

錬心館では、先人達が生死をかけて編み出した「業の伝承」と「敵を斬るその敵こそ我が邪心なり」・「業は体で覚え心で鍛うべし」を心得として「和」を尊び、楽しくも厳しい修行を重ねております。

演武者

- 館長 西田浩三
- 七段 西田孝子
- 五段 田北健三
- 五段 田北健三
- 四段 松石健祐



平成三十年正月

住吉神社奉納演武

参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段	参 段				
山崎	坂本	岩野	宇野	古家	立光	荒木	松原	伊原	高橋	中田	片原	藤田	道田	田村	寛村	津村	志村	本村	榎田	日野	松岡	松本	小村
清徹	真明	真明	秀郎	真一	美佳	美夫	美夫	礼敏	かお	麻衣	雅大	裕昭	大輔	博州	昌孝	由起	一幸	景三	武尊	健吾	千隼	正平	龍平

座波流武術空手

座波流武術空手道 六段



代表代行

松下 剛

昭和四十九年生

座波流武術空手は、沖縄古伝の武術・護身術の六百年の歴史を継承しています。座波流で継承されている型は、サンチン、ナイファンチン、パッサイ、クーサンクー、セイサンの五つです。この五つの型稽古を通して型の中に含まれる技を引き出しながら、分解組手を稽古していきます。

自分の身を守るためには、いざという時に自然体でなければ身体が居着いてしまいます。この居着きを無くすには、柔らかな動きと平常心が必要になります。また、人間が本来持っている力を十分に発揮するために、正しい姿勢と身体の使い方が重要であり、型稽古を通して身につけていく必要があります。

当空手では、筋トレで作られる力を必要としませんので力のない女性や子供、また体力のないご年配の方でも行うことができます、

座波流武術空手は、心道流宗家である座波仁吉先生のお名前を頂戴し、2015年より座波流へ改名し、型及び組手の技術を子供から大人まで幅広い年齢層で受け継いでいます。



演武者

六段	江崎正
五段	湯地堅二
六段	梅崎慎司
六段	松下剛
四段	武末潤
五段	梅崎健太

写真右側より

自剛天真流拔刀術 保存会



自剛天心流拔刀術

保存会 会長

川崎修一

昭和二十四年生

自剛天真流は代々、筑前福岡藩五十二万石に門外不出の御留流として伝えられた武術である。創流時はすべてのものを武器として使用する総合武術であったが、現代では柔術、抜刀術だけが伝えられている。

福岡藩にて、自剛天真流は柳生新影流、安倍立に次ぐ第三流に位置付けられていた。

抜刀術、柔術の他には相手の力を利用した技や護身術、逮捕術などがあった。

流祖・藤田長助麓憲貞（天保十五年・一八四四没）は、楊心流、笠原流、柳生石舟斎宗巖から免許皆伝を許された高弟 福野七郎右衛門正勝が開祖の良移心当流の三つの流派の免許皆伝を得た後、自ら工夫を重ねて、麓天真流とし一流を開いた。後に為勢自得天真流と名乗った。

自剛天真流となったのは、九代庄林藤原道一の時。



演武者

総師範 川崎修一

師範代 石田憲実

師範代 今井博

師範代 川畑義和

中伝 種池重貴

中伝 桑田美琴

初伝 安達義弘

剣士 松阪柚我

立会人

師範 山下伸一郎

剣士 小谷誠

不二流体術



不二流体術

第三代宗家

大 嶋 竜 太 郎

不二流体術の特徴は審判のいない、即ちルール不在の中で行われていくというのが前提にある。その為に慎重さと大胆さを兼ね備える事が必要であり、且つ人間の生理に沿った身体運用が求められる。

体術の名人と言われた井上鑑昭が、家伝の柔術と平法学を基礎とし、全国の剣術、槍術、柔術などの道場を武者修行後に一位流として合気武術を教授し始める。その後、一位流から親和体道となり後に親英体道となる。親和体道から名前をとり、親和会・代表として井上鑑昭の代稽古を務めていたのが、不二流体術・開祖・古賀不二人であった。

稽古では今まで使っていない身体の機能や様々な感覚を総動員する。身体の正しい動作や姿勢を整えることが大事となるので、自分の姿勢を正確に把握するなど正確性を身に付けていく。動作をする際に正しく効率的に筋肉と身体の動きを連動できなければ、頑張っただけの効果は見込めないばかりか、怪我の原因にさえなってしまう。身体の機能を理解して、正しい動きを身に付け、鍛えた身体を効率よく最大限の動きを出来るようにしていく稽古体系があります。



第三代宗家 大嶋竜太郎

演武者

初段	田中良拓
二段	古殿雄二
三段	湯島浩一
参段	山本盛夫
宗家	大嶋竜太郎

日本嵩山少林拳連盟 講武会



講武会 会長
連盟技術顧問

手島 敬治郎 昭和二十四年生

日本嵩山少林拳連盟は「真の少林武術の普及」、「青少年健全育成」と「日中友好促進」に寄与する事を目的として設立されました。

武道の源である少林武術は、一五〇〇年前に達磨大師が中国河南省少林寺に禅宗を興して以来、仏法護持の秘法として発展した世界で最も古い歴史を誇る、「禅」と一体となった武術です。

中国河南省の省都、鄭州市から南西に七十五キロ。一際辺りに威厳を放つ聖なる山「嵩山」。その山懐に抱かれた山麓の一角に名刹少林寺があります。少林武術は拳術や多彩な武器を自在に操ることで、多くの人々を魅了してきました。

当連盟は九州各地で活動していた少林拳の団体が一つになり「日本少林拳武道連盟」として設立されました。一九八八年より中国河南省少林寺と交流を重ね、二〇〇一年に中国河南省少林寺武術館より許を得て「日本嵩山少林拳連盟」と改名し、現在に至っています。

これまでの佐伯國雄初代会長（国際少林武術連合総会主席）と河津政雄二代会長の尽力と中国河南省嵩山少林寺武術館からの支援により、我が国における少林武術普及の先駆者として活動を拡げています。

道場では五歳から一般の拳士が、共に汗を流し切磋琢磨しています。



武術指導する武僧



中国少林寺山門前で留学生と武僧「釈 徳隔」と記念撮影

演武者

会長	手島 敬治郎
四段	手島 孝一朗
武段	鹿島 虹希
武段	藤野 大河
初段	盛永 燎雅
初段	森山 充
拳士	盛永 雷牙
拳士	大井 孜竜
拳士	盛永 依